

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 050

最新の農業資材のトレンド

先日、幕張メッセにて開催された第13回農業WEEKに参加してきました。肥料・土改材部門ではバイオスティミュラント資材、微生物資材の展示ブースが比較的多く、これまでの土壌診断結果に基づく栄養補給の土づくりと合わせて、これらの資材の生産現場での利用が加速しそうです。生産現場では「安い、使いやすい、いつもの」を求める声が依然多いとは思いますが、今年の「異常気象で困り果てた…」の声を受け、提案するにはピッタリです。

微生物を上手く利用するには

弊社グループでも微生物資材を生産しており、センチュウ対策や連作障害対策、残渣分解地力化促進に以前から利用されています。長年の使用実績から、微生物を上手に使うにはポイントがある事が明らかになっています、それは

- ①微生物のエサになるものを補う
→ワラ、ぬか、残根、出荷カス等緑肥・堆肥類の他、窒素分を補う。
- ②微生物の育つ環境を整える（温度、水分、pH、通気性、土着菌叢状況）。
→中耕の実施、pH矯正資材使用、完熟堆肥の使用、マルチ使用の工夫
- ③作物の生育ステージのどこで施用するかを工夫する。
→連作障害対策では収穫直後の対策が効果的（基肥使用以外の使い方も有効）
などです。上記ポイントを押さえて微生物パワーを引き出して欲しいです。

残渣の地力化には、秋～初冬がオススメ

朝晩の冷え込みが感じられるこれからの時期は、腐敗菌類よりも地力化促進菌類の方が優位になるため、稲わら腐熟促進や残渣分解に好適な時期です。

その際には**新発売した「ゼオサット」**がおすすめです。

最高級国産ゼオライトを基材に使い、分解力のある菌を2種配合、さらにそれらを働かせる酵母も配合しました。

具体的な販売提案例としては「石灰窒素の代替使用」。腐熟促進に利用される石灰窒素ですが価格高騰のため販売や利用が難しい、そんな時にゼオサットを使ってください（年内使用で2～3袋/反、春使用ならプラス1袋）。

分解菌による腐熟促進以外にも、ゼオライトの永続的な土壌改良効果、病原菌に対抗する有用菌の土壌病害対策など、総合的に役立つメリットがあります。また、化学肥料ではないことも時勢的にPRポイントです。

